教えて！ドクター

Q：以前、印刷工場での集団発症が話題になった「胆管がん」について教えてください

A：胆管とは、肝臓で作られた消化液である胆汁を十二指腸へ流す管です。肝臓の中にある肝内胆管と、肝臓の外にある肝外胆管に分けられますが、一般に、前者に発生した悪性腫瘍を肝内胆管がん、後者に発生したものを胆管がんと呼んでいます。

発生頻度は、胆のうがんと合わせた胆道がんの死亡数が現在第6位となっており、年々増加傾向にあります。男性は女性の約2倍で、男女とも50～60歳代に多くみられます。多くの場合、初期には無症状。がんが進行して胆管が閉塞（へいそく）すると、胆汁の流れが滞り、皮膚や白目の部分が黄色くなったり、皮膚が痒くなったり、尿の色が非常に濃くなったり、便が白っぽくなったりする、黄疸（おうだん）症状がでてきます。これを閉塞性黄疸と言います。

印刷所での集団発症に関しては、印刷機についたインクを取り除く洗浄剤中の、ジクロロメタンと1・2・ジクロロプロパンという化学物質を、換気のよくない部屋で大量に吸い込んだことが、発がんと関連しているのではないかと考えられています。

（岡田俊一・おかだ内科クリニック院長、甲府市北口2―9―12、ニシコー北口駅前ビル2F）
☎055・288・1801